

オーストラリアレポート

豪州準備銀行は12会合連続で政策金利を据え置き

- 豪州準備銀行 (RBA) は12会合連続で政策金利を据え置き。ロウ総裁は中立的な金融政策姿勢の継続を示唆。
- RBAは「最近の指標は豪州経済が来年に向けて緩やかに持ち直すという経済見通しと整合的」との景気判断を示す。
- RBAは賃金上昇率の弱さや高水準の家計債務が今後の個人消費を抑制する可能性がある」と指摘。
- 今後、底堅い雇用増や企業収益改善が賃金上昇に波及し始めれば、将来の利上げに向けた地ならしが進む可能性。

RBAは12会合連続で政策金利を据え置き

豪州準備銀行 (RBA) は9月5日の金融政策理事会で、政策金利を1.50%に据え置く決定を下しました (図1)。RBAによる政策金利の据え置きは、2016年9月以降、12会合連続となりました。

フィリップ・ロウRBA総裁は声明文において、従来通りの中立的な金融政策姿勢の継続を示唆しています。

経済指標は今後の景気回復と整合的との見方

ロウ総裁は、「最近の経済指標は豪州経済が来年に向けて緩やかに持ち直すというRBAの経済見通しと整合的である」との景気判断を示しました。声明文では、①非資源セクターの設備投資見通し改善、②高水準の企業景況感、③活発な住宅建設活動、④小売売上高の持ち直し、などの点に言及がなされました。

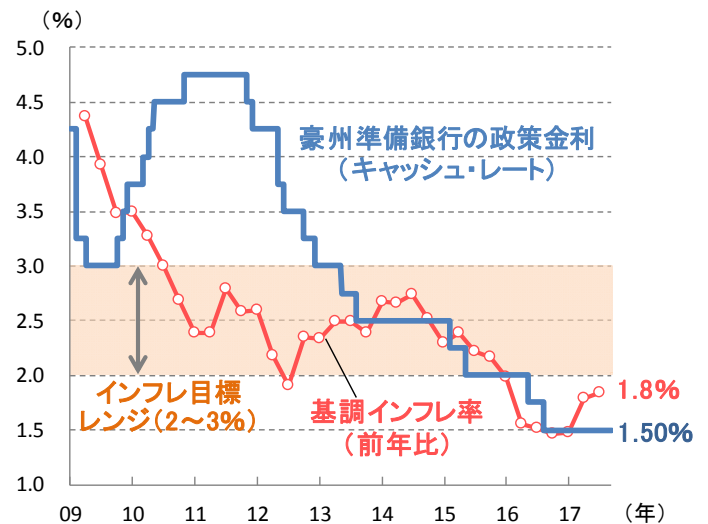
もっとも、RBAでは賃金上昇率の弱さや高水準の家計債務が今後の個人消費を抑制する可能性がある」と指摘するなど、引き続き賃金や家計債務の動向を注視する姿勢を示しています。

今後は雇用増が賃金上昇に波及するかが焦点

前者の賃金動向に関しては、RBAは「低い賃金上昇率は当分の間は継続する可能性がある」との従来通りの見通しを示しながら、今回の声明文では「労働市場の堅調な環境は時間の経過とともに賃金上昇率の高まりに繋がるだろう」との一文が追加されました。

足元の豪州の雇用統計では直近2017年7月まで10カ月連続の雇用増 (月平均2.8万人増) が続いているほか、企業収益も2017年4-6月期の営業利益は前年比で底堅い伸びが続いています (図2)。今後、底堅い雇用増や企業収益の改善が賃金上昇に波及し始めれば、将来の利上げに向けた地ならしが進む可能性があります。

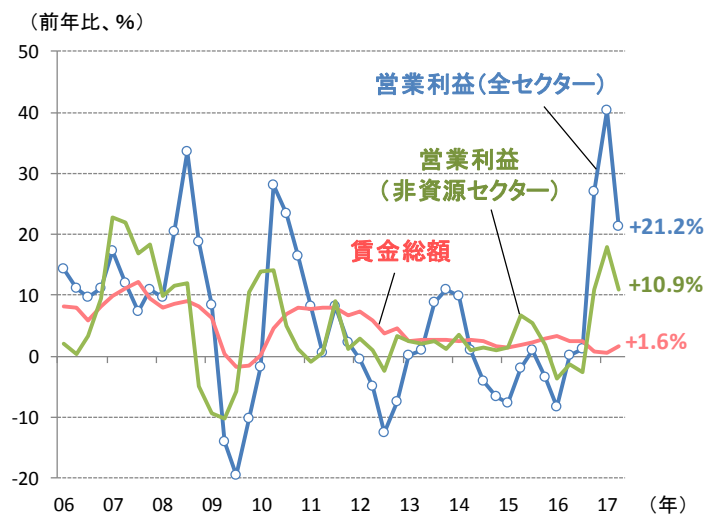
図1：豪州準備銀行 (RBA) の政策金利とインフレ率



(出所) 豪州準備銀行 (RBA)、豪州政府統計局 (ABS)
(期間) 基調インフレ率：2009年1-3月期～2017年4-6月期
政策金利：2009年1月1日～2017年9月5日

(注) 基調インフレ率は消費者物価指数 (CPI) のトリム平均値 (平均値を算出する際、データの最大値と最小値付近の値を計算から除外) と加重中央値の平均により算出。

図2：豪州の企業収益と賃金総額の推移



(出所) ABS (期間) 2006年1-3月～2017年4-6月

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。